

令和7年度

企業版ふるさと納税

サイト掲載事業



岡山県新見市

## 新見市企業版ふるさと納税 大佐中学校区小中一貫校校舎等整備事業について

本市では、9年間の一貫した教育活動の実現とさらなる教育の質の向上を図ることを目的として、大佐中学校区の刑部小学校と大佐中学校を対象に令和9年春の開校を目指し、施設一体型の小中一貫校の整備を進めております。

新校舎は、木材をふんだんに活用した木造2階建て、延べ面積2,300㎡の建築物で、主要構造部に使用される木材については100%、全体でも約85%以上に地元大佐の木材を使用する計画としております。

通学する児童生徒はもとより、地域の方々に末永く愛される校舎になることを目指しております。

併せて、児童生徒向けに本市の主要産業である林業への理解を深めること、魅力を感じてもらうことを目的としたふるさとキャリア教育の取組や、木育の一環としての植林体験、伐採・貯木場・製材加工場などの見学会を実施しております。工事着手後には工事現場での見学会も予定しております。



(大佐中学校区小中一貫校 新校舎のイメージ図)



(貯木場見学 大佐小阪部地内)



(製材加工場見学 院庄林業(株) 津山市)

## 企業版ふるさと納税 小中学校 ICT 教育環境整備事業について



教育 ICT GIGA スクール構想

本市では、中山間地に在りながら ICT を活用した先進的な教育環境の実現を目指し、平成 22 年度よりタブレット端末の配備や IWB（電子黒板）の整備等に取り組んでいます。

現在は国の GIGA スクール構想に基づき、全小中学校で 10Gbps 対応の無線 LAN 環境を構築し、児童・生徒にタブレット端末を 1 人 1 台配備して興味・関心に応じた探求活動ができる環境を整え、児童生徒の主体的な学習を促しています。また、AI 型ドリルの導入や IWB 等を活用した遠隔授業にも取り組むことで、小規模校やへき地学校においても、個別最適化された学習を行っています。さらに、ドローンを題材としたプログラミング教育を通じて論理的思考力や創造性・協働性を育むとともに、現代社会を生きる上で必須である情報モラル教育・情報セキュリティ教育にも力を入れています。



(日常的に授業でタブレット端末を使用)



(児童の回答を一覧表示して話し合う様子)



(ドローンを入力した座標へ飛行させる様子)



(班で協力し試行錯誤しながら課題へ取り組む)

### 【寄附目標額 2,000 万円】

(参考) 令和 8 年度に実施を見込んでいる関連事業

- ① 小学生用タブレット更新 55 千円×1,012 台=55,660 千円 (公立学校情報機器整備事業費補助金 37,106 千円/市費 18,554 千円)
- ② 小学校教員用タブレット更新 55 千円×150 台=8,250 千円 (デジタル活用推進事業債 7,400 千円/市費 850 千円)
- ③ IWB (電子黒板) H30 導入分更新 1,118 千円×26 台=29,068 千円 (デジタル活用推進事業債 26,100 千円/市費 2,968 千円)

## 新見市企業版ふるさと納税 新見駅周辺まちづくり整備事業について

新見駅周辺は、交通の要衝である駅を中心に発展し、北側には高梁川、南側には新見美術館が立地し、中心市街地として多くの市民に親しまれてきました。

しかし、近年の少子高齢化や人口減少に伴い、著しい活力低下が課題となっています。

本エリアにおいては、本市の玄関口として各種の取組を行いながら拠点性を高めることにより、将来にわたって公的施設をはじめとした街の機能を維持していくことが必要であります。

このことから、本市では、新見駅周辺のまちの将来像やまちづくりの方向性を整理した「新見駅周辺まちづくり基本構想」を策定し、その基本構想の実現を目指していくため、官民が連携した組織として「新見駅周辺みらいプロジェクト」も組成されており、地域資源を活用した様々なソフト事業を行うことで、駅周辺のにぎわい創出に取り組んでいます。

また、鉄道で分断された駅南北を繋ぐため「自由通路」の整備を目指していくことで、市街地を一体化したまちづくりにおける地域経済の活性化、駅のバリアフリー化による利用者の利便性の向上を図り、持続可能なまちづくりを推進していきます。

【高梁川親水公園を活用したイベント】



【新見駅北側（駅舎側）】

